

2万人の「命の道」

避難経路の複数確保は、防災の基本。堺市の臨海コンビナート地区は内陸につながる道が臨海1号線の一本しかなく、また津波や高潮の浸水リスク、地震による液状化リスクの高い道。ならば、災害時だけでも企業(工場)の敷地内を通れる道を作れないのか。私たちの会派の提案を受け、堺市が主導し、立地企業に呼びかけて、労働団体も加わっての会議体がスタート。約2万人が働く地区の「命の道」とも言える構想が進んでいます。



堺と大洲を結んだ鉄砲

愛媛県大洲市と堺の鉄砲の関係をご存じですか？伊予大洲藩主が藩士で鉄砲鍛冶の井上関右衛門に堺で鉄砲鍛冶を始めるよう命じ、その後も大洲藩が江戸時代を通じて井上家を物心両面で支えてきたことが、今の堺鉄砲鍛冶屋敷につながっています。そんな縁で、今も両市では市民の交流が続いています。この度、堺鉄砲鍛冶屋敷ミュージアムのオープンを前に、私も市民団体の皆様と大洲市を訪問。市長にも面会し、「ぜひミュージアムのオープンに合わせてお越しを」とお願いしてきました。大洲は「持続可能な観光地世界1位」に輝いたまち。観光の面でも参考になりました。

インターン生はいつでも大歓迎

「政治家は華やかなイメージだったので、衝撃的で新鮮でした」。8・9月に私の事務所に来た、政治家志望のインターン生の言葉です。そうです、市議会議員の仕事って地道で身近なもの。それを知ってもらえて何より。ふちがみ事務所ではインターン生をいつでも受け入れています。政治家志望でない、単なる社会勉強でも大歓迎です！



ふちがみ猛志大感謝祭開催

選挙以来となる、ご支援の皆様との懇親パーティーを開催しました。規模の大小は様々に、市政報告や懇親の場を定期的に設けています。SNS等で開催案内を発信しますし、事務所にお問い合わせいただいても結構です。機会あらば、ぜひお気軽にお越しください。皆様の集まりに呼んでいただけただなら、それも喜んで参ります！



ご意見をお寄せください！

FAX: 072-320-0103
Mail: takeshi@fuchigami.info

議員の仕事は、市民の声を市政に届けること。まずは「聞くこと」です。皆様のご意見、ご不満、お困りごと、何でもお聞かせください。政策立案に活用させていただきます。

お名前: _____ TEL: _____
住所: _____

※匿名でも結構ですが、ご連絡先をご記入くださいましたら、必ずお返事いたします。

ふっちーのつぶやき (編集後記)

古墳沿いの通学路に、古墳から飛び出て車にひかれたカエルの死体が散乱している。かわいそうなのでなんとかしてほしい。との息子の陳情を受け、道路ぎわにヘビの置物を置いてカエルの飛び出しを抑止するという案を一緒に考えました。はたして、こんな予算提案が通るだろうか…



ふちがみ猛志 議会活動報告 Vol. 34

- 1977年堺生まれ、堺育ち
- 妻 娘13才 息子11才・8才
- 堺市立錦小学校 卒
- 堺市立殿馬場中学校 卒
- 大阪府立三国丘高校 卒
- 神戸大学法学部 卒
- 堺市議会議員 (3期目)
- 文教委員会委員長
- 保護司
- 養育里親



【ふちがみ猛志市政相談所】

堺区新町2-4 小山電ビル2F-A1
TEL/FAX: 072-320-0103
Mail: takeshi@fuchigami.info

3期目が本格始動

8~9月に開催された決算議会は、3期目の最初の本格的な議会でした。私は6度の質問機会、計4時間以上の質問時間。これは48人の議員でトップ3に入る長さでした。もちろん、質問は長ければいいというわけではありませんが、たくさんの質問をするにはたくさんの準備が必要です。ハードな議会でしたが、**議会での質問機会は、市民の皆様からいただいた大事な権利であり、義務**です。今後も最優先で取り組みます！

今年度は文教委員会に所属

文教委員になりましたので、今年度は多くの教育課題に取り組みます。挙げるとキリがありませんが、

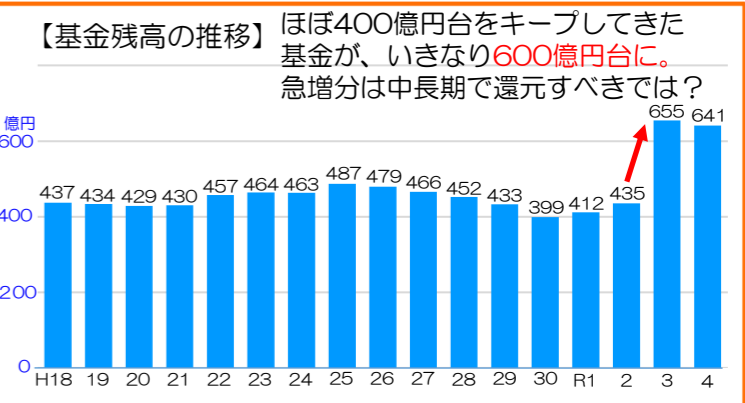
- 障がい児、医療的ケア児の環境改善
- 不登校対策
- 幼児教育の充実
- 教員不足や多忙化の改善
- 大規模校の過密解消
- 堺区図書館の設置

などを中心に頑張ります。皆さんも身近なところで

お困りごとがあれば、上記LINE等でご連絡ください。もちろん、教育以外の課題でも結構です。

2期目の永藤市政はどうなる？

1期目の永藤市政は節約路線を突き進み、今も巨額の基金を貯めこんだままです(下表)。「基金が増えた」と言えば聞こえはいいですが、**行政の仕事は皆さんから預かった税金を市民サービスとして「返すこと」**です。物価高、人口減少、超高齢化など課題山積のわが国、わがまちです。2期目の永藤市長に市民の声をしっかり届けていきます。



どこまで膨らむ!? 万博建設予算

万博の建設予算が2度目の上振れで、当初の1.8倍に。でも、これで終わり？ 東京五輪がそうだったように、まだまだ増えると私は思っています。万博推進派であり、知事与党の維新が過半数を占める府議会では、チェック機能も働かないでしょう。予算の1/3は関西経済界が負担する予定でしたが、増額には耐えられず、税負担が増えそうです。この責任はいったい誰が取るのでしょうか。堺市民も大阪府民。決して他人事ではありません。



医療的ケア児のガイドラインと現場軽視

看護師が勉強を教える？

たん吸引や経管栄養注入等、医療的な支援が必要な子を医療的ケア児といい、学校では看護支援員が付きまします。その看護支援員からこんな訴えがありました。「教師との役割分担が不明確」「学校によっては看護支援員にその子の全てが任せきり」「学習支援や保護者対応まで担わされる」等々でした。教員免許のない看護師が教えている？チームでの支援がない？そのしわ寄せが来るのは子どもです。



放置された文科省通知

原因は明らかでした。堺市には医療的ケア児の受け入れにあたってのガイドラインがなかったからです。平成31年3月に文科省から、ガイドラインを策定するように通知があったにも関わらず、**堺市教育委員会は4年半にもわたり、それを放置。**私は議会で厳しく追及しました。放置の原因は「意識が希薄だった」という情けないもので、速やかな策定を約束させました。



現場の声も無視

問題はそれだけではありませんでした。ガイドラインがないことや、前述の問題が発生していることを、

現場の看護支援員が教育委員会に何度も訴えていたのに、**その声も無視していた**のです。教育委員会はそのことも認め、これもまた「意識が希薄だった」と反省の弁を述べました。

繰り返される現場軽視

現場を大事にしない。その姿勢は、教育委員会において何度も見られ、私が何度も指摘してきたことでした。教員や看護支援員だけでなく、スクールソーシャルワーカー、日本語指導員、学校司書等、たくさんの専門職が子どもを支えています。しかし、そんな彼らに事前の説明もなく、突然に報酬が下げられたり、勤務体系が変えられたり。そして、その都度、優秀な人材が堺の教育現場を去っていきました。



教育は人なり

他人に大事にされない人が、目の前の子どもを大事にできるでしょうか。教育現場へのICTの導入がいくら進んでも、やはり「教育は人なり」です。**子どもを一番近くで支える現場の人たちの想いが大事にされ、彼らが働きやすい環境を作ることが、子どものためにもなるはず**です。引き続き、議会を通じて現場の声を届けていきます。



中央図書館の建て替えはどうか？

初当選以来、訴え続けてきた中央図書館の建て替えがようやく現実のものに…、というところまで来ました。当局は建て替えの候補を「大仙公園エリア」「都心部」「大仙公園エリアと都心部に分散」という3パターンに絞り、今年度中に結論を出す」と表明。大仙公園エリアで有力視されるのが、大阪女子大跡地です（右図の★）。しかし、ここでは交通の利便性がいとは言えません。一方、都心部には中央図書館を移設できるほどの土地（1ha近く必要）は、おおよそ見当たりません。私は、**日常的に使う区域館機能だけでも交通の便のいい都心部に移し、残った中央図書館機能を大阪女子大跡地に移す「分散案」を支持**しています。そして永藤市長自身も「都心部での図書館機能の整備に向けた検討」を公約にしています。ん？公約は「検討」だけ？私は市長に直接「検討しただけで公約達成か？実現は？」と問い、市長は「もちろん実現を目指す」と応じました。この件は大いに期待しています。



↑老朽化し「バリアフリー」とも言い難い中央図書館（図の★）

4年経っても「検討中」!? 堺消防署の跡地活用

4年前に決定した堺消防署移転

令和元年に「堺消防署が令和6年度に移転すること」が決定。堺消防署は大小路交差点のすぐそば、堺区のだ真ん中の一等地。その跡地活用は大変重要な課題です。令和6年度移転、そして既存の建物の解体に1年かかったとしても、令和7年度には次の活用に向けての建設工事が開始できます。その**令和7年度を起点に逆算し、跡地活用事業のスケジュールが立てられるはず**…、と私は思っていました。



まさかの白紙!?

移転決定から4年。活用の方向性(案)はとっくに固まり、構想も練られ、そろそろ発表される頃かと思いき、議会でそれを問うたのですが、なんとびっくり、4年経ってもなお「検討中」、白紙状態でした。今から

急いでも、跡地に次の施設ができるのは、令和10年度とのこと。おそらく建設開始は9年度。つまり**約2年間も、あの一等地が空き地になりそう**なのです。

期限のない仕事を延々と・・・

いったいこの4年、何をしていたのか？私が追及してわかったのは、移転・解体が終わるであろう令和7年度を意識せず、「**期限を決めずに検討を続けていた**」ということ。**まさにお役所仕事**です。私は移転決定直後から「図書館を」と提案し、永藤市長も「大きな案」と応じていましたし、昨年度には「移転後の速やかな土地利用」を建築都市局長に確認していました。なのにこの始末。あの答弁は何だったのでしょ。新たな施設ができれば周辺の賑わいづくりにも寄与したでしょうに、**2年遅れの逸失利益は小さくありません**。とは言え、あとの祭り。少なくとも、これ以上予定が遅れぬよう、厳しく進捗をチェックし続けます。



大小路交差点そばの堺消防署

目標達成率わずか0.5%のICT事業

マイバッグ持参など、環境にやさしい行動を促し、ポイントを付与するアプリを堺市が開発。その予算1500万円。このアプリで1000tのCO2が削減できると豪語した当局でしたが、結果はたった5t。目標達成率0.5%、1tあたりの削減コストは300万円。当初見込みの「1t 1.5万円」でも私は高いと思ったんですが…。右表の通り、アクティブユーザー(※)を100%と想定していたなど、ずさんな見込みが明らかに。そもそも堺市内でしか使えないアプリなんて

意味ある？アプリ開発は自治体の仕事？私の指摘に「国にしてもらいたい」との本音がポロリ。「ICT」と言えば簡単に予算がつく永藤市政の風潮に釘を刺しました。

	ダウンロード数	アクティブユーザー数	アクティブユーザー率	行動回数	1人あたり行動回数	CO2削減効果
想定	5,000	5,000	100%	61万回	122回	1,000 t
結果	2,287	283	12.6%	742回	2.6回	5 t
達成率	46%	5.6%	12.6%	0.1%	2.1%	0.5%

※アプリ等のサービス登録者(ダウンロードした人)のうち、実際に活用している人の割合。皆さんのスマホにも活用していないアプリがありますよね？100%なんてありえない！

議員定数削減案に反対しました。

維新提出の堺市議会議員の定数削減案(48→41)は、維新以外の全会派の反対で否決。定数削減を求める市民は少なくありませんが、私は**信念を持って反対**です。議員の存在は市民の権利。多様化する社会において、議会も多様であるべきで、定数削減は多様な声、少数意見を届きにくくします。定数削減で議会のチェックの目が少なくなれば、上記のようなムダも見つけられなくなります。働かない議員がいるから？だったら、**厳しくチェックし働く議員を選びましょう**。そもそも可決させるための交渉努力もしない、可決させる気のない維新のパフォーマンスの提案には付き合っておりません！

【ふちがみブログ】



※ぜひ議会傍聴に！議員の頑張りが一目瞭然。定数削減への私の考えは、上記QRのブログに詳しくまとめています。ご覧ください！

